



岐阜県感染症発生動向調査週報

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

平成 30 年 7 月 13 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

2018 年第 27 週

(7/2~7/8)

6 月報合併号

- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は減少傾向にあるものの、引き続き患者が報告されています。
- ヘルパンギーナが増加傾向にあります。
- 海外への渡航者が増加する夏休みには、輸入感染症に注意が必要です。→トピックス

■ 定点把握対象疾患の発生動向（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

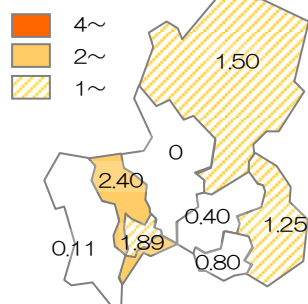
レベル	疾患名	基準	該当保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	なし	—	—
注意報レベル	なし	—	—

※定点当たり報告数が一定の基準を超えた場合、保健所単位で「警報・注意報レベル」を発信しています。

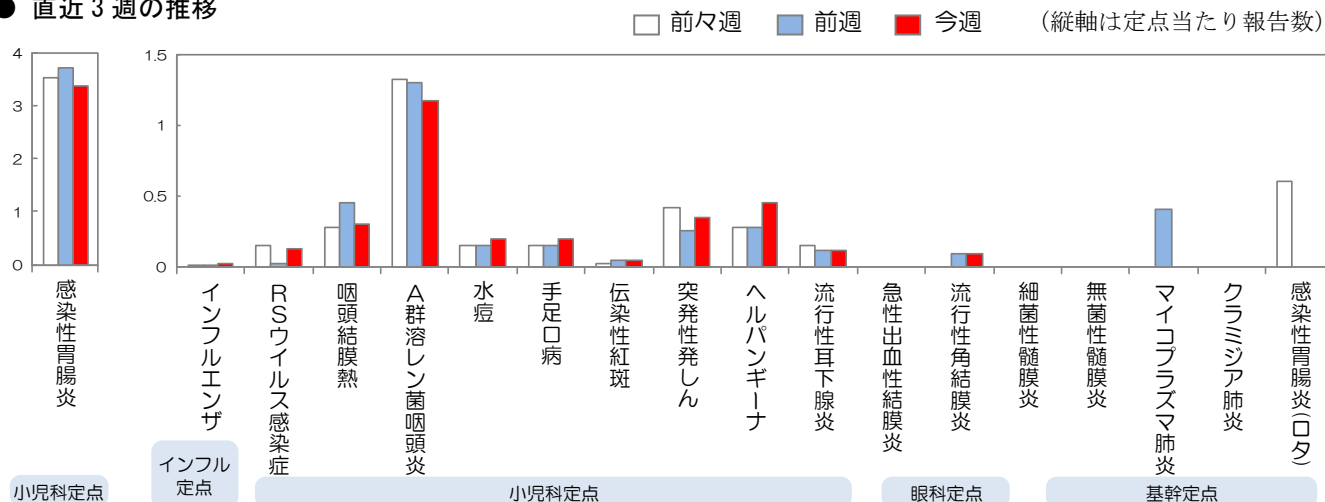
警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを、注意報レベルは流行の発生前であれば今後 4 週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

● 注意したい感染症の保健所別流行状況（地図中の数値は定点当たり報告数）

< A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 >



● 直近 3 週の推移



■ 全数把握対象疾患の発生動向

● 今週届出分

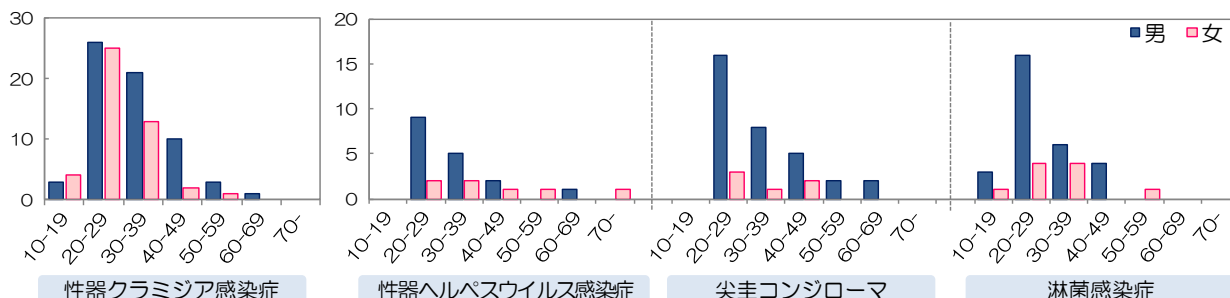
- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 6 例
- 3 類感染症：なし
- 4 類感染症：A 型肝炎 1 例、デング熱 1 例、レジオネラ症 5 例
- 5 類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2 例、後天性免疫不全症候群 2 例、梅毒 1 例、百日咳 2 例

■ 月報告定点把握対象疾患の発生動向 <6月>

● 性感染症報告数（STD定点：15か所）

疾患名	6月	男			女		
		6月	5月	4月	6月	5月	4月
性器クラミジア感染症	20	13	11	7	7	9	9
性器ヘルペスウイルス感染症	4	4	4	3	-	1	2
尖圭コンジローマ	6	5	9	9	1	-	2
淋菌感染症	7	5	5	2	2	-	5

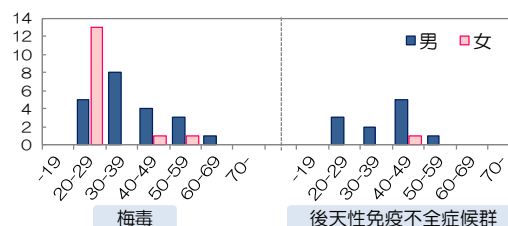
<性・年齢階級別報告数（2018年1~6月）>



（参考）全数把握対象の性感染症 報告数

疾患名	6月	1~5月	累計	男	女
梅毒	9	27	36	21	15
後天性免疫不全症候群	1	11	12	10	1

性・年齢階級別報告数（1~6月）



● 薬剤耐性菌感染症報告数（基幹定点：5か所）

疾患名	6月	5月	4月	3月	2月	1月
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	12	20	13	21	5	9
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	6	8	6	4	5
薬剤耐性緑膿菌感染症	-	-	-	-	-	-

■ 病原体検出情報

● 医療機関から提出された検体の病原体検出状況（6月採取分、7月8日現在結果判明分）

臨床診断名	病原体名（遺伝子検出を含む）	検出数
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1型	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4型	2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12型	2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264型	1
腸管出血性大腸菌感染症	<i>Escherichia coli</i> O121:H19 VT2	1
	<i>Escherichia coli</i> O128:H2 VT2	1
レジオネラ症	<i>Legionella pneumophila</i> SG1	2

※病原体検出情報の詳細についてはHPをご覧ください（毎週更新）。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/byougentai.html>

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターのHPをご覧ください。
 感染症発生動向調査週報（IDWR） <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>
 病原微生物検出情報（IASR） <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>

■ トピックス

● 輸入感染症

◇ 海外渡航者による輸入感染症が毎年報告されています

海外で感染症にかかり帰国（入国）する輸入感染症の患者は、国内・県内（表1）で毎年多く報告されています。

近年報告が多いのが、デング熱やチクングニア熱など熱帯・亜熱帯地域で蚊が媒介する感染症です。中でもデング熱は、昨年全国で200人以上の輸入症例が報告され、フィリピン、インド、ベトナム、インドネシアなど、東南・南アジアでの感染者が多くを占めています。

麻しんは、国内では輸入症例を発端とした集団感染事例が毎年発生しています。今年3～6月には、台湾からの旅行者を発端とした国内流行が発生し、感染者は沖縄県と愛知県を中心に100人を超えました。渡航者による国内へのウイルスの持ち込みを防ぐために、渡航前に予防接種を受けておくことが非常に重要です。

また、赤痢、腸チフス、A型肝炎など水や食品を原因とする感染症や、梅毒、後天性免疫不全症候群などの性感染症についても輸入症例が毎年報告されています。

夏休みシーズンは特に多くの方が海外へ渡航しますので、渡航者本人が渡航先の情報を正しく把握し、感染症予防のための行動がとれるよう、医療関係者は渡航者に対する情報発信と注意喚起をお願いします。

表1 県内の輸入感染症患者の報告（2016年～2018年第27週まで）

感染地域が国外として報告されたもの。結核を除く。

年	疾患名	報告数	感染地域（推定含む）	主な感染経路
2016年	腸管出血性大腸菌感染症	1	メキシコ	汚染された食品・飲料水の摂取
	E型肝炎	1	シンガポール	
	A型肝炎	1	ミャンマー	
	デング熱	3	スリランカ(1)、インドネシア(1)、フィリピン(1)	蚊による吸血
	マラリア	1	アンゴラ	塵埃・汚染水などのエアロゾル吸入
	レジオネラ症	1	ポーランド	
	アメーバ赤痢	3	タイ(2)、韓国(1)	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	台湾	
	後天性免疫不全症候群	5	ブラジル(4)、タイ(1)	汚染された食品・飲料水の摂取 または性的接触
	梅毒	1	ギリシア	感染者からの飛沫感染
計	18			
2017年	細菌性赤痢	1	ミャンマー	汚染された食品・飲料水の摂取
	腸チフス	1	インド	蚊による吸血
	デング熱	2	フィリピン(1)、インドネシア(1)	
	アメーバ赤痢	2	韓国(1)、ラオス(1)	汚染された食品・飲料水の摂取
	ウイルス性肝炎（B型）	1	台湾	性的接触
	計	7		
2018年 (1～27週)	腸管出血性大腸菌感染症	1	カンボジア	汚染された食品・飲料水の摂取
	腸チフス	4	フィリピン(4)	
	パラチフス	1	インド	
	デング熱	2	タイ(1)、フィリピン(1)	蚊による吸血
	レジオネラ症	1	中国	塵埃・汚染水などのエアロゾル吸入
	アメーバ赤痢	1	パキスタン	汚染された食品・飲料水の摂取
	後天性免疫不全症候群	1	コートジボアール	性的接触
	梅毒	1	中国	
	計	12		

予防のポイント

- 手洗いを徹底し、衛生状態の悪い地域では、生水、氷、カットフルーツ、サラダなどは避ける
- 肌の露出を避け、虫よけスプレーを使うなど蚊やダニに刺されないようにする
- むやみに動物や鳥に近づかない
- 予防接種が受けられる感染症については、渡航前に余裕をもって医師に相談し接種を検討する

★参考リンク FORTH/厚生労働省検疫所 <http://www.forth.go.jp/>